

生活や療養に関すること



◆生活を支援する制度（令和6年12月現在）

自宅で療養生活を送る場合に利用できるサービスや、必要な備品・物品等の態勢を整えるために、次のような制度を利用することができます。

1 介護サービスを利用したい

介護保険制度

介護保険の被保険者で、介護認定を受けられた方は、介護度に応じて介護サービスを1割、2割又は3割の自己負担で受けることができます。サービスを利用するときは、ケアマネージャーが様々な調整をします。

対 象

- ・65歳以上の方が、要介護・要支援認定を受けた場合
- ・40歳～64歳までの人が、「末期がん」等の特定疾患により介護が必要となり、要介護・要支援認定を受けた場合

【問合せ先】 市区町村の介護保険担当課（P.44～）または各地域包括支援センター

介護保険を使って利用できるサービス

訪問を受けて利用するサービス

→訪問介護、訪問入浴、訪問看護など



福祉用具の購入・レンタル、住宅改修

→電動ベッド、車いすレンタル、手すりの設置、段差解消など



通所して受けるサービス

→デイサービス、デイケアなど



地域密着型サービス

→小規模多機能型居宅介護、夜間対応型訪問介護など

短期入所サービス

→ショートステイ



施設入所

→特別養護老人施設、介護老人保健施設、有料老人ホームなど



2 身体に障害が残っている方

身体障害者手帳

身体に障害が残った方の日常生活の不自由を補うために、さまざまな助成・支援を受けられるようにするものです。がん患者さんの場合、ストーマの造設や喉頭摘出、四肢の切断をされた方などが対象となります。

【問合せ先】 市（区）福祉事務所、市町村の担当課（P.44～）

◆自宅での療養

あなたが住み慣れた自宅で療養生活を送る場合、療養や日常生活を支えるために必要な施設や、あなたを支えてくれる専門家が近くにいます。

必要とする施設、専門職、利用できるサービスなどについて、まず、がん相談支援センターや、各市町村の福祉事務所に相談して一緒に探しましょう。

1 在宅療養の相談窓口

施 設	役 割
在宅療養支援診療所	あなたの在宅療養を支える診療所です。あなたやご家族からの連絡に 365 日 24 時間体制で応じ、必要な場合には訪問診療（往診）や訪問看護を行います。 また、状態が急変したときには、専門的な治療を行った病院の担当医と連携し、治療法の相談や再入院の手配なども行います。
訪問看護ステーション	あなたが通院や外出が困難な場合、看護師または准看護師があなたの自宅を訪問し、医師の指導に基づく診療の補助や、健康管理・相談等のサービス（訪問看護）を提供する施設です。
地域包括支援センター	介護予防も含め、あなたの在宅療養などに関する様々な制度の利用や、福祉の相談・支援を行う施設です。
居宅介護支援事業所	ケアマネージャー（介護支援専門員）が、あなたの状況や希望を踏まえて介護保険の申請手続きやケアプランを作成します。利用するサービスの調整などを行い、日常生活のサポートをします。

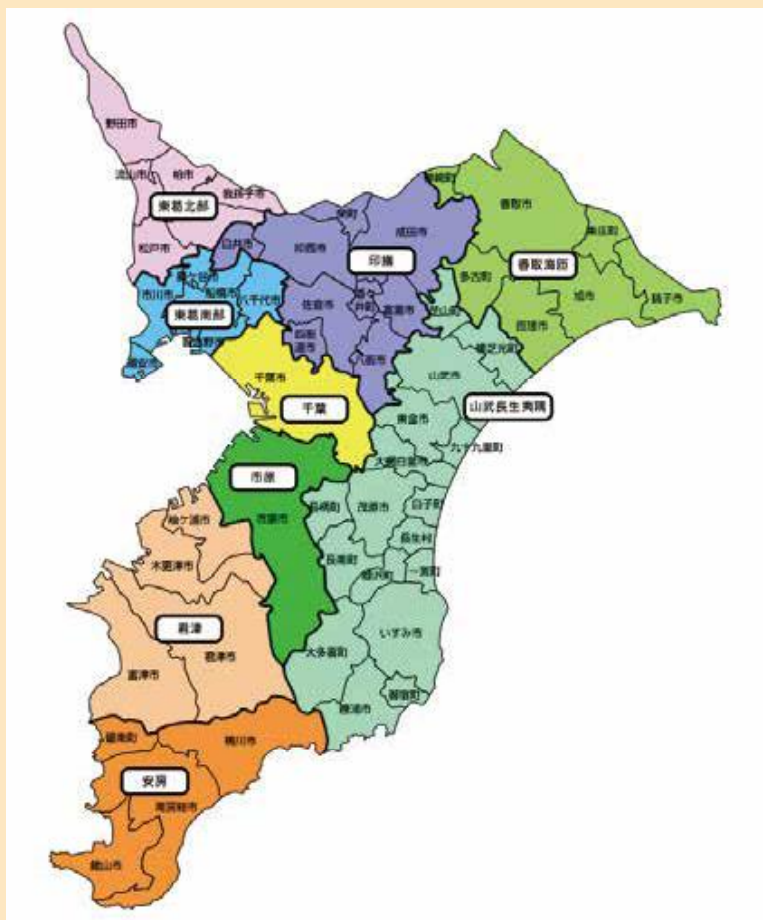
2 あなたを支える専門職

職 種	役 割
在宅医（在宅療養支援診療所などの診療所）	定期的に訪問診療し、緊急時などに対応します。また、専門的な治療を行った病院の担当医と連携し、必要に応じて再入院の手配など行います。
訪問看護師	在宅医との連携によって、あなたの療養の世話、医療処置、病状の確認などを行います。
ケアマネージャー	あなたがどのような支援を受けられるかを一緒に考えます。（介護保険の対象者のみ）
ホームヘルパー	あなたの自宅に訪問し、日常生活の介護、買い物、掃除などの家事の援助を行います。
薬剤師	薬の説明や、使用法・副作用に関する相談に応じます。
歯科医師・歯科衛生士	歯や口のケアなどの相談に応じます。
理学療法士 作業療法士	日常生活を送る上での基本的な動作の回復や機能低下の予防を図ります。
社会福祉士 精神保健福祉士	福祉の総合窓口です。



ちばがんナビの「がん緩和ケア提供施設」のページから自宅での療養を支える施設の検索ができます。

地図上からエリアを選択してクリックすることで、在宅療養支援診療所や訪問看護ステーションなどの情報を見ることができます。



「在宅医療」については、『がんになったら手にとるガイド』のP.83 もご参照ください。
わからないことがあったら、がん相談支援センター（P. 2）に相談してみましょう。

◆がん治療と口腔ケアについて

がん治療の開始前から終了後、治療が終わってからの経過観察までの全期間を通じて、口腔ケアは大切な役割を担っています。



口腔ケアは、がん治療の副作用を軽減し、術後合併症の予防に効果があります。がん治療をスムーズに継続させるためにも口腔の管理が重要となります。

がん治療中でも、しっかりと噛めておいしく食事ができ、楽しく会話することは、栄養面や精神面にも良く、免疫力を高めることにもつながります。

がん治療中には、手術や放射線療法、化学療法等の副作用による免疫力の低下などにより、口腔内の衛生状態が悪化し、口の中にも様々な副作用が起こりやすくなります。適切な口腔ケアを行うことにより、副作用等のリスクを下げ、症状を緩和することができます。そのためには、がん治療中も継続して口腔内を清潔で良好な環境に維持するための口腔ケアがとても大切となります。

がん治療が始まる前に

- ・ 歯科を受診しましょう
- ・ 口腔内を清潔にしましょう
- ・ 口腔内の環境を整えましょう

※詳細は、下記「口腔ケアハンドブック」をご覧ください。

また、がん治療前後の口腔内のトラブル等については、がん治療を受けている医療機関に御相談ください。

- ・ がん治療を受ける患者さんへ「口腔ケアハンドブック」



◆がん患者 QOL 向上事業について

がん患者の生活の質の向上を図るため、アピアランスケアや若年がん患者の在宅療養を支援します。市町村が実施する助成事業に県が補助することにより、がん患者が負う心理的及び経済的負担の軽減を図ります。

詳しくは千葉県ホームページをご覧ください。



<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenzu/gan/soudan/qolkouzyou.html>